

WEST PRESS 1



DISCUSSION WEST meets 梅林 克

建築家・梅林克が関心を寄せる建築家たちを訪ね、ディテールに対する考え方や設計手法を聞くシリーズ。第1回となる今回は、作家としてエッジな創作活動を行う一方で、汎用性のある住宅ラインF.O.B. HOMESも手がける梅林ならではの抜きどころをわきまえたディテール観を軸に、建築金物メーカーWESTの社長・西康雄と、そのハイエンドシリーズ「Agaho」を手がけたプロダクトデザイナー・寶角光伸が、デザインに対する考え方やアルミという素材の扱い方、そして本シリーズへの期待を語り合う。

住み手の目が肥えた今、求められる住宅やプロダクトが本物志向へと変化する中で、建築金物に期待される役割とは。日本のプロダクトデザインのあるべき姿とは何なのか。ドアノブ1つから、ジャンルを超えたデザインをめぐる幅広い話が展開された。

梅林 本シリーズでは私がいろんな建築家を訪ねてディテールの話をする予定ですが、まず今回はWESTの西社長とAgahoのデザイナー・寶角さんを交えて、Agahoの魅力や私自身のディテール観をお話ししようと思っています。Agahoからはミニマルな印象も受けますが、実際はニュートラルで、どんな建物にもなじみやすいですね。

寶角 Agahoのシリーズは素材をアルミで統一しているんですが、中がグッと詰まっているんです。一般的なアルミ成型ではダイカストで型に流し込んで圧力をかけるだけですが、Agahotは叩いて強度を出す鍛造を採用した。それが独特の色と質感を出しています。

梅林 触ったらわかりますよね。密実な感じです。

寶角 通常は型から出しやすいようにアルミにシリコンなどの不純物を混ぜるんですが、そのままアルマイト処理すると、模様が出てきてしまったりと仕上がりが悪いです。Agahoでは金型を使う場合でも、溶けたアルミを手で注ぎ込んで大まかな形を機械で作り、鍛造でトントンと叩いて硬く締める、というプロセスを踏んでいます。こういう素材なつくり方ならば、不純物を混ぜなくて済みます。

梅林 エッジのシャープさも独特ですね。型からの抜きやすさを優先させて角を丸めるわけでもない。量産品でこの精度を出すのは、なかなかできないですね。

寶角 家電の影響も受けているんですが、つくり手が「つくりやすさ」を優先させるのが日本の工業製品の特徴ですね。一方で建築家は、現場でつくった金物のシャープさをイメージされる方が多い気がしますが、それを量産品でやるのは難しいし、違うとも私は思う。プロダクトならではの製造プロセスも踏まえながら、家電的でもない中間の製品をつくりたかったんですね。

梅林 家電と現場との間という話とも共通しますが、F.O.B. HOMESでは細部をつくり込みすぎないようにしています。空間構成にはセンチタイプですが、サッシなどには既製品も使います。他にも、面で連続させる部分は天井や床など一点にとどめて、他の部分は無理してきれいに取めることはしない。また家具でも、側面はAEP(アクリルエマルジョンペイント)でも天板はOP(オイルペイント)にして水拭きできるようにする、といった仕上げを意識しています。デザインしすぎた部屋は住みにくいんですね。最近は使い手も目が肥えていて、用意しつくされたものよりも、コーディネートしがいのある部屋を求めています。だから建物に未完成な部分を残した方が喜ばれる。ただし手に触れるところは、良いものを使いたい。ある建築金物メーカーのカタログでは“住宅用”と“ビル用”でカテゴリーが分かれているんですが、私は住宅を設計するときでもビル用を選んでいきます。住宅用だと小ぢんまりして、かえって扱いにくい。ビル用の場合は工事に専門業者が入りますから、取り付けが難しいものもきちんと付けてもらえます。住宅用の場合、誰が工事してもきれいにできるようにつくられていますか…。

寶角 やはり発想が「家電」なんですね。誰が工事しても大丈夫なようになっているんです。Agahoも誰でも上手く付けられるように設計してありますが、ビスが見えないようにしたり、プラスチックのカバーを付けないようにできています。カバーでカバーをつくる、ということはしたくないので。

建築家と金物の幸せな関係

梅林 事務所として使っているこの建物には、「ORGAN」、つまり器官を意味する名前をつけています。人間の器官はチューブ状に連続していますが、ファンクションや大きさが変化します。建築の機能を意識した、いわゆるプログラム建築と呼ばれるものは、お弁当箱に機能を詰め込んだような建物が多い。ですが私は、即物的に機能を収容するなら人間の器官と同じようにチューブ状がよいと考えたんですね。できれば細部も、この建築のストーリーに乗せたいと思います。部分と全体の関係が相対的であってほしい。例えば取っ手1つまでチューブ状であるとか。それが難しいなら、建築金物などはニュートラルであることが望ましいですね。

寶角 私も製品をデザインする上ではニュートラルなものにしたいと考えていますが、シリーズ性を考えたとき、かえって難しくなることもありますね。つまりニュートラルにつくろうとした時点で、ニュートラルではなくなってしまう。それに使い手はシリーズ全体を見るわけではないので、その場その場で自然な形にすればいいのかもしれない。そう考えてデザインすることもあります。さじ加減が難しいんです。これからの対話では、建築家から見たニュートラルの意味が具体的にどういうものなのか、ということも知りたいですね。

質感ある「ニュートラル」なパーツが 建築の新しい世界を開く



梅林 克

うめばやし・かつ

1963年生まれ。

87年大阪芸術大学建築学科卒。

87年高松伸建築設計事務所勤務。

94年F.O.B Association設立。

99年益永みづ枝、藤脇慎吾らとF.O.B

HOMESを設立。

立命館大学理工学部環境システム

工学科非常勤講師、東京都立大学

工学部建築学科非常勤講師。



ORGAN



WEST VOICE

「建築金物の世界に新風を吹き込みたくて始めたのがAgahoシリーズです。素材のアルミは個人的にも好きなんです。光りすぎないし、磨き込めば独特の質感が出る。シンプルさと仕上げ感を追求しつつ、ほぼ従来品並みの価格に抑えました。実際にAgahoが付いた建築を見ると、金物には空間のグレードを押し上げる力があると実感します。

今号でお話した梅林さんは個性的なエネルギーの持ち主。"存在感はなくてもいい"という考え方は新鮮でした。

WEST PRESSでさまざまな建築家の声を聞いて、これからの物づくりに生かしていきたいですね」

WEST代表取締役社長 西康雄・談

西 ところで建築家の方々は、建築金物を自分でつくりたいと思うものなのでしょうか。

梅林 私自身としては、できればアルヴァ・アアルト(1898-1976)のように取っ手も自分でデザインして建築のストーリーの中に乗せたいと思っています。

西 生産側としては、それが簡単にできる仕組みをつくってみたいですね。

梅林 製品化と言われると、ある程度の戦略が必要ですが、自分が欲しいものをつくるなら考えやすいですね。

西 究極的にはご自身で使うためにつくっていただいきたいんですが、一方で他の方も「いいな」と思うようなものを揃えられたら、と。

梅林 例えばベースを同じにして先端を変えるだけでもいいと思うんです。型も1個で済むでしょう。その部分だけを自由に考えるというルールで何人かの建築家が考えて、展覧会を開催しても面白いのではないのでしょうか。

寶角 個性的なデザインの金物ではメンテナンスの問題も残りますが、個人の施主向けなら、きちんと説明して了承いただければいいので可能ですよね。

梅林 建築家という顔が見えるからできる仕事ですね。私が建築家の話を聞いて面白く思うのは、細部の工夫のことなんです。一見単純明快な建物をつくっている建築家でも、実は大きな開口部をスムーズに開閉させるために、とんでもない工夫を凝らしていたりします。そういう話は、あまり本には載っていません。Agahoの製品でこだわったアルミ鍛造の話ともリンクするような見えない細部の工夫について、このシリーズでは聞いていきたいと考えています。

2009年8月3日 F.O.B.Aにて収録

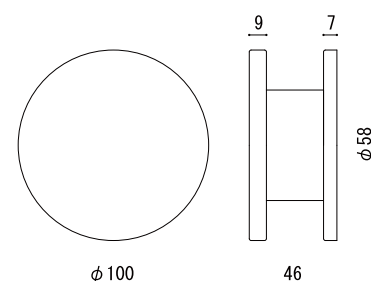
Next
WEST meets 永山祐子

ルイ・ヴィトン 京都大丸店

©阿野太一

Agaho four 9040

Door Plate



ACTUAL SIZE



WEST CORPORATION

TOKYO OFFICE / SHOW ROOM
SHIBUYA MINAMI TOKYU BLDG. 1F
3-12-18 SHIBUYA, SHIBUYAKU, TOKYO, 150-0002 JAPAN.
TELEPHONE: 03-3499-9260 FACSIMILE: 03-3499-9263

OSAKA OFFICE / SHOW ROOM
YODOYABASHI YAMAMOTO BLDG. 1F
4-3-22 IMABASHI, CHUOKU, OSAKA-CITY, OSAKA, 541-0042 JAPAN.
TELEPHONE: 06-6221-5777 FACSIMILE: 06-6221-5888

株式会社ウエスト

東京オフィス/ショールーム
150-0002 東京都渋谷区渋谷3丁目12番18号
渋谷南東急ビル1F
TEL: 03-3499-9260 FAX: 03-3499-9263
WEST PRESS 担当: 荻山

大阪オフィス/ショールーム
541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4丁目3番22号
淀屋橋山本ビル1F
TEL: 06-6221-5777 FAX: 06-6221-5888
WEST PRESS 担当: 笠井

WEST PRESS 1
2009年10月1日発行

Art Direction:
藤脇慎吾
Text:
平塚桂 (ぼむ企画)
Photo:
繁田諭 (Nacása & Partners Inc.)
Edit:
publica

<http://www.west-lock.co.jp>
E-mail: info@west-lock.co.jp